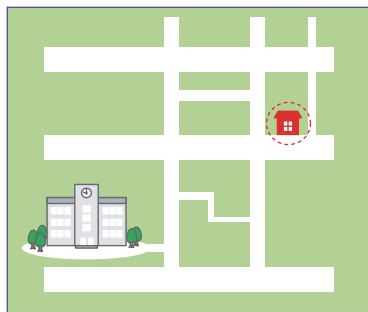


# しん すい 浸水ひなん地図の活用

ご自宅などが浸水する恐れのある区域でないか、浸水ひなん地図で確認しましょう。

また、避難指示（緊急）・避難勧告が発令されたときスムーズに避難できるように、避難場所の位置と避難経路を確認しておきましょう。避難に関する情報は、職場や学校の仲間とも確認し、情報を共有しましょう。

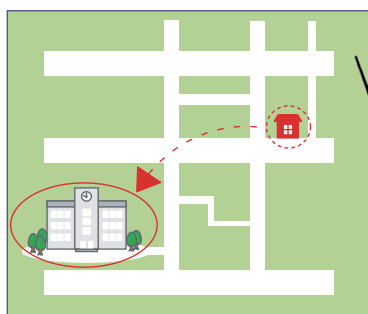
## ①ご自宅などの位置に印をつけましょう



ご自宅などの位置に印をつけ、浸水ひなん地図の「浸水深の目安」を参考に、周辺の浸水箇所や深さを確認して下さい。

なお、洪水ひなん地図（洪水ハザードマップ：P.23～24）を合わせて準備し、洪水時における浸水状況についても確認しましょう。

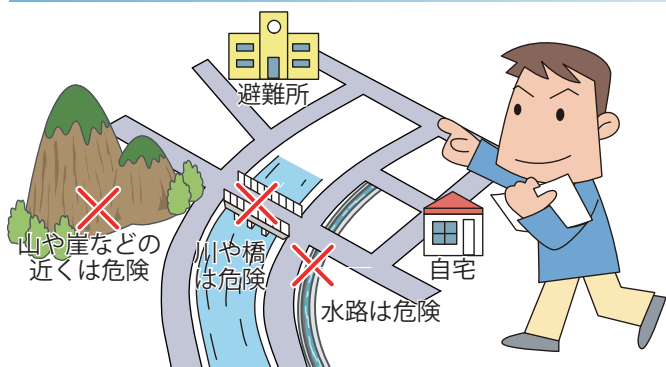
## ②自分たちの避難場所に印をつけましょう



内水はん濫では、浸水深が小さいため建物の2階以上へ避難しましょう。

ただし、より大きな雨が降り続いた場合には、河川の堤防の決壊や河川からあふれた水による外水はん濫となるおそれがあります。場合によっては、避難場所への避難が必要になりますので、自分たちの避難場所に印を付けて避難経路を設定しましょう。

## ③実際に避難経路を歩いてみて安全か確認しましょう



設定した避難経路を実際に歩いて、避難にかかる時間や地図に掲載されていない地形（階段や地形変化など）を確認しましょう。できれば昼間だけでなく夜間の災害発生を想定し、安全に気を付けながら歩いてみましょう。

歩く際も、浸水をイメージし、安全な避難が行えるように準備しましょう。

## ④地域で協力して、より良い浸水ひなん地図にしましょう



地域で災害や避難について話し合い、情報を共有しましょう。また、高齢者などの避難に支援が必要と思われる方についても、地域でできることを考え、皆さんの安全が確保できるようにしましょう。